第三回　塗装研究室

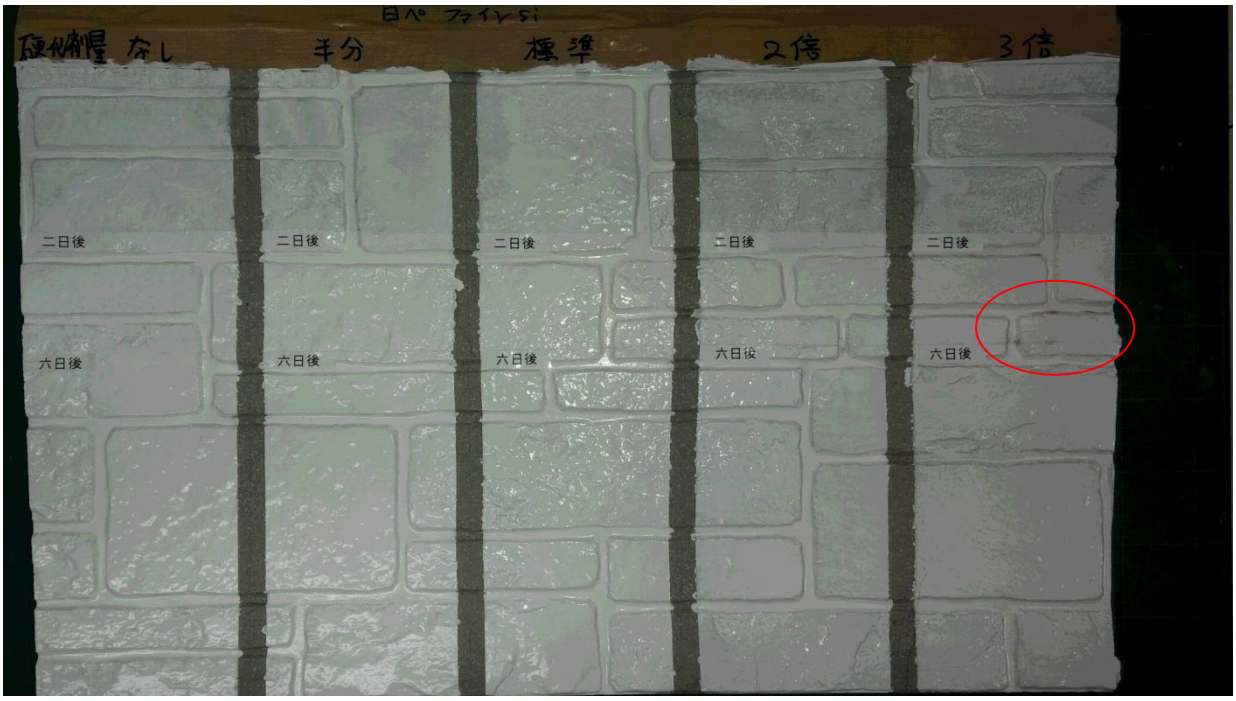
今回は弱溶剤２液タイプの材料で、現場での２液型塗料の硬化剤を混合する際、計量機を使用せず目検での分量を混合するのをよくみかける為、適性な硬化剤比率・硬化剤を少なく混合した場合と多く混合した場合の硬化状態と塗料シンナーでの再溶解試験にて違いが出るのかを確認。

使用材料：ロックペイント　ハイパーユメロック　（シリコンタイプ）
硬化剤比率　標準　10：1　硬化剤なし　10：0　硬化剤半分　10：0.5
硬化剤２倍　10：2　硬化剤３倍　10：3
日本ペイント　ファイン Si　（シリコンタイプ）
硬化剤比率　標準　7：1　　硬化剤なし　7：0　硬化剤半分　7：0.5
硬化剤２倍　7：2　　硬化剤３倍　7；3

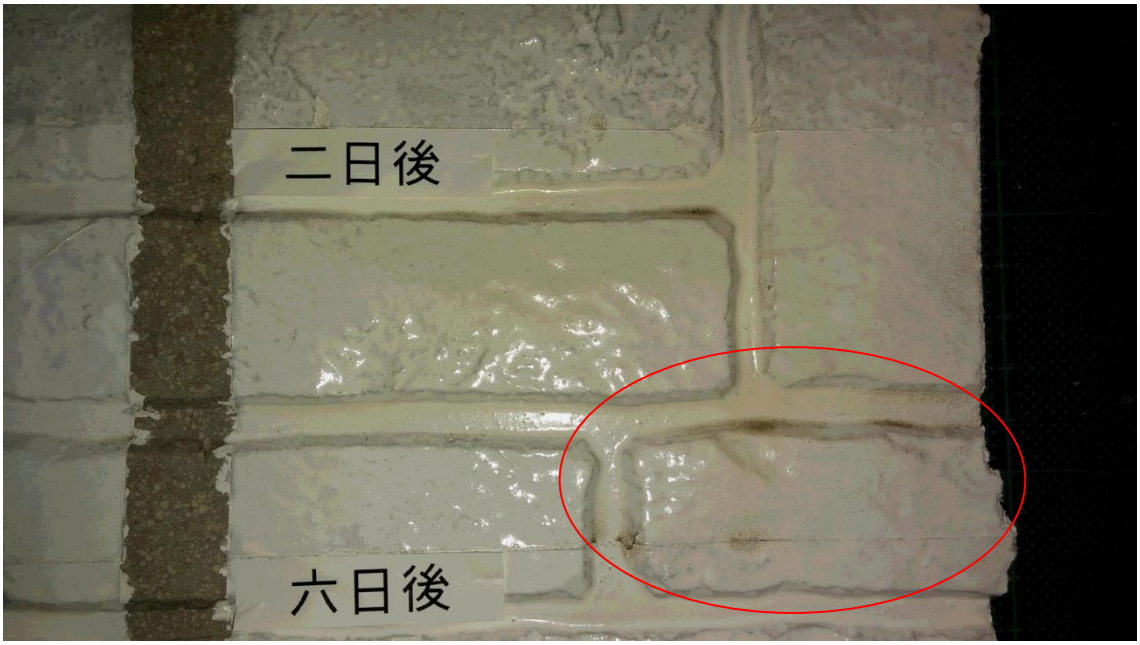
施工下地：窯業系サイディング

塗装工程：どちらもシーラレスの２回塗り（シンナー希釈はメーカー仕様）

テスト　硬化状態　塗装２日後~６日後で変化はあるのか？
（タック等があるのか？）
日本ペイント　ファインＳｉ

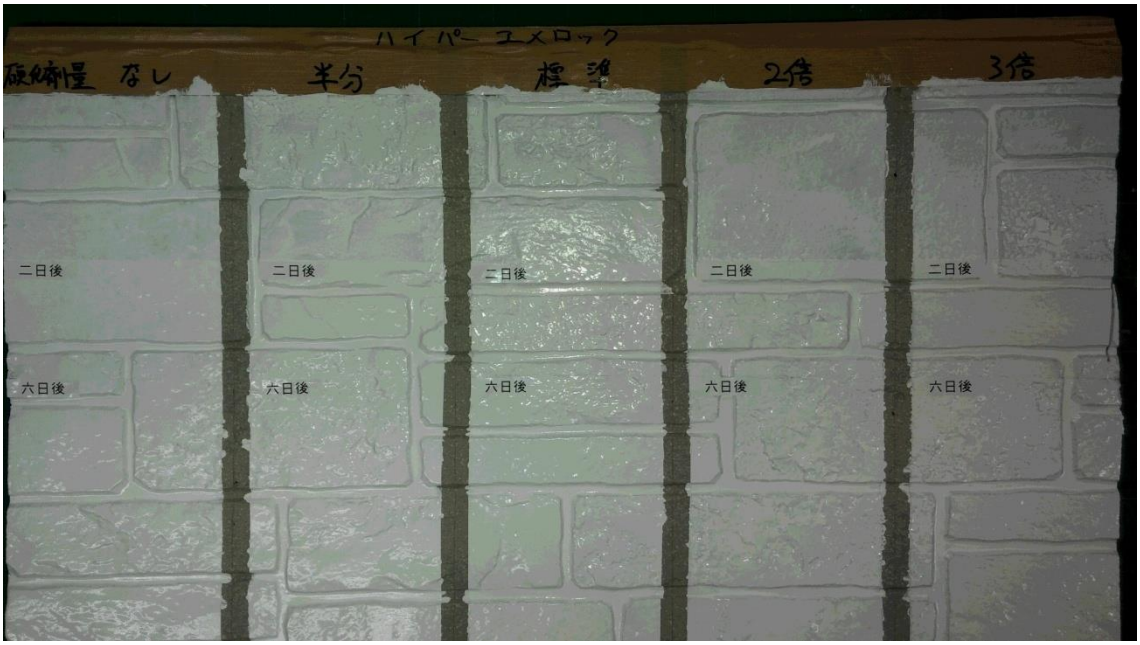


変化が見られた部分

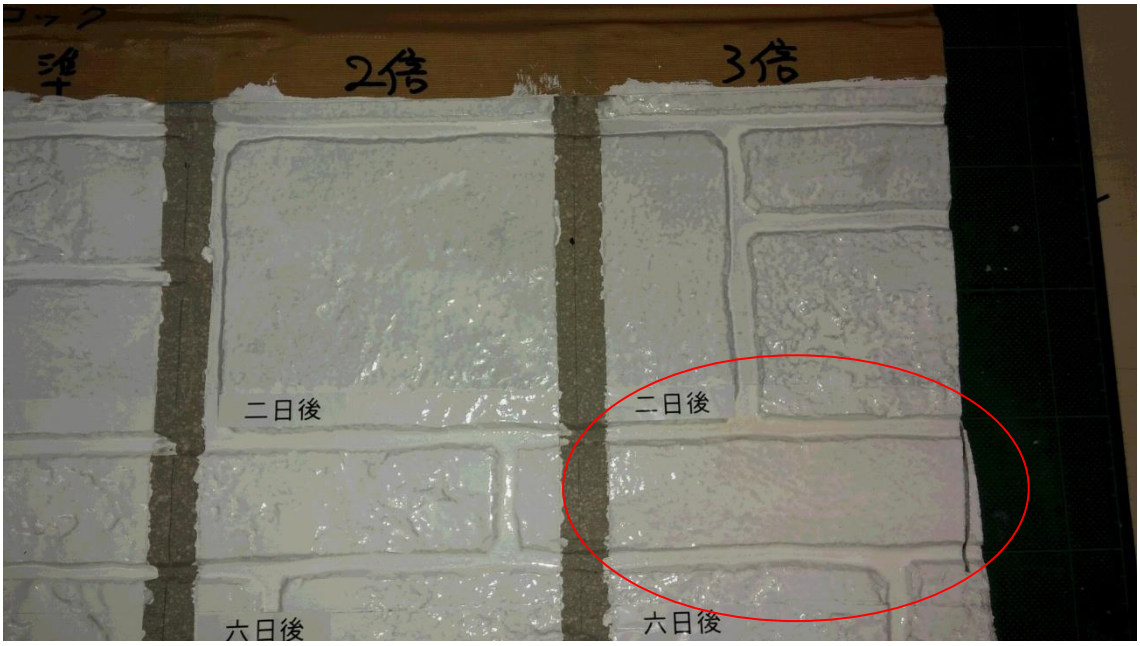


塗装２日後の塗膜にほこり(火山灰)をかけたところ、硬化剤３倍入りの塗膜にタック（べたつき）がありほこりの付着が見られた。その他は異常なし。

ロックペイント　ハイパーユメロック



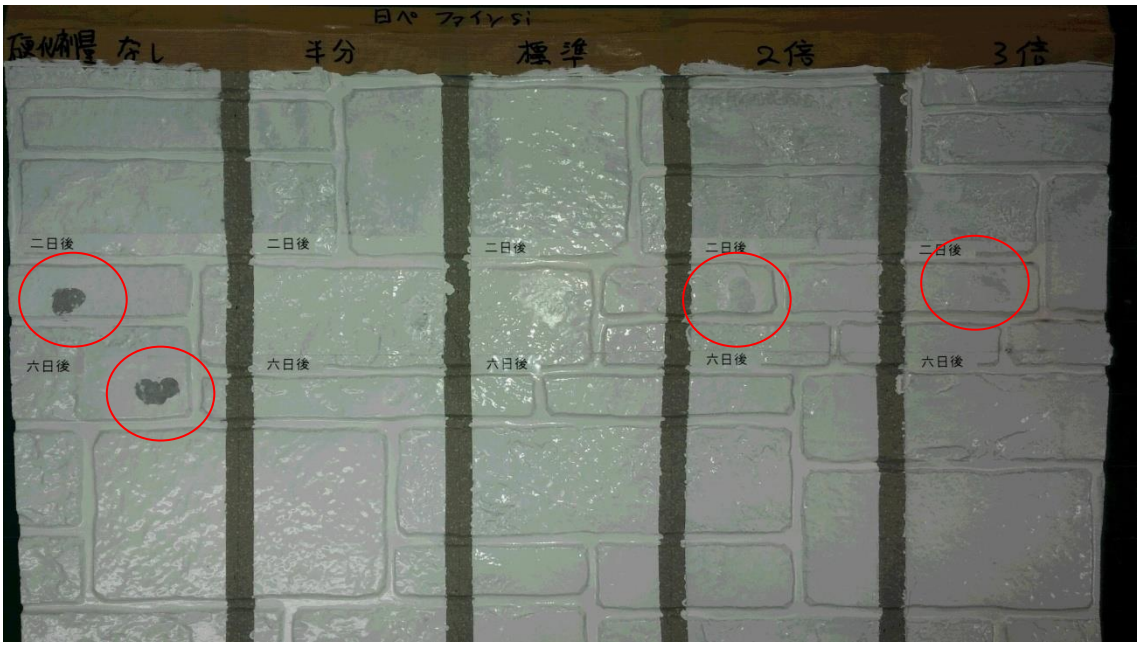
ハイパーユメロックには大きな変化は見られず。

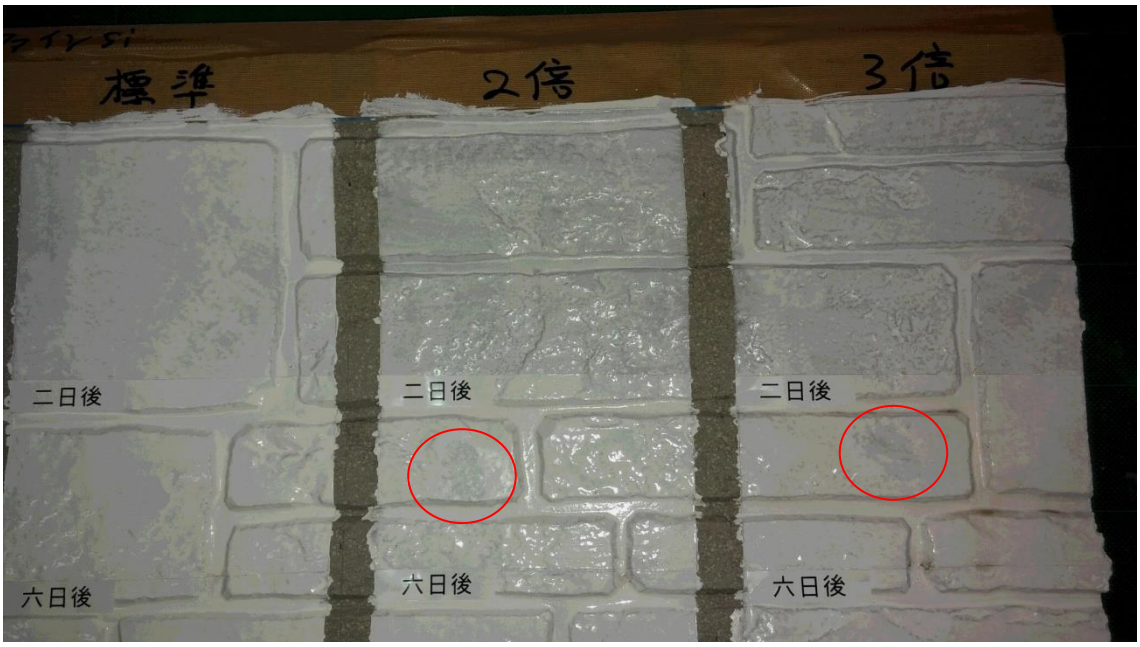


ただし画像では見えないのですがやはり３倍入りの部分には、手で触れるとタック（べたつき）がありほこりの付着があったのかざらつきが見られました。

テスト２　塗料シンナーで再溶解はするのか？

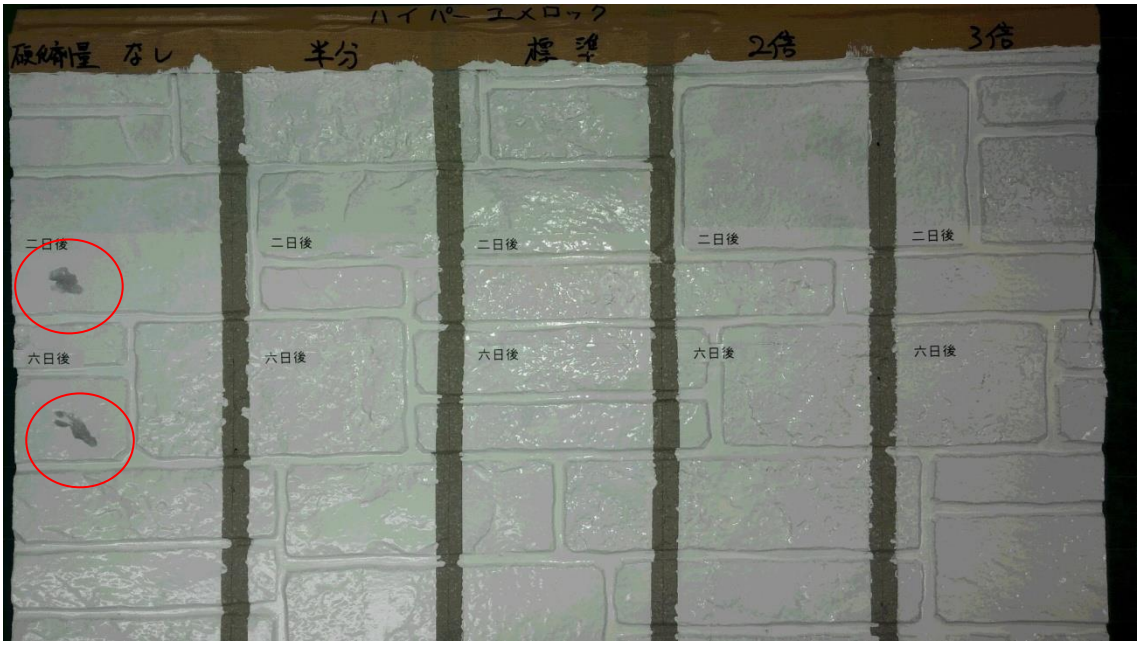
日本ペイント　ファインＳｉ

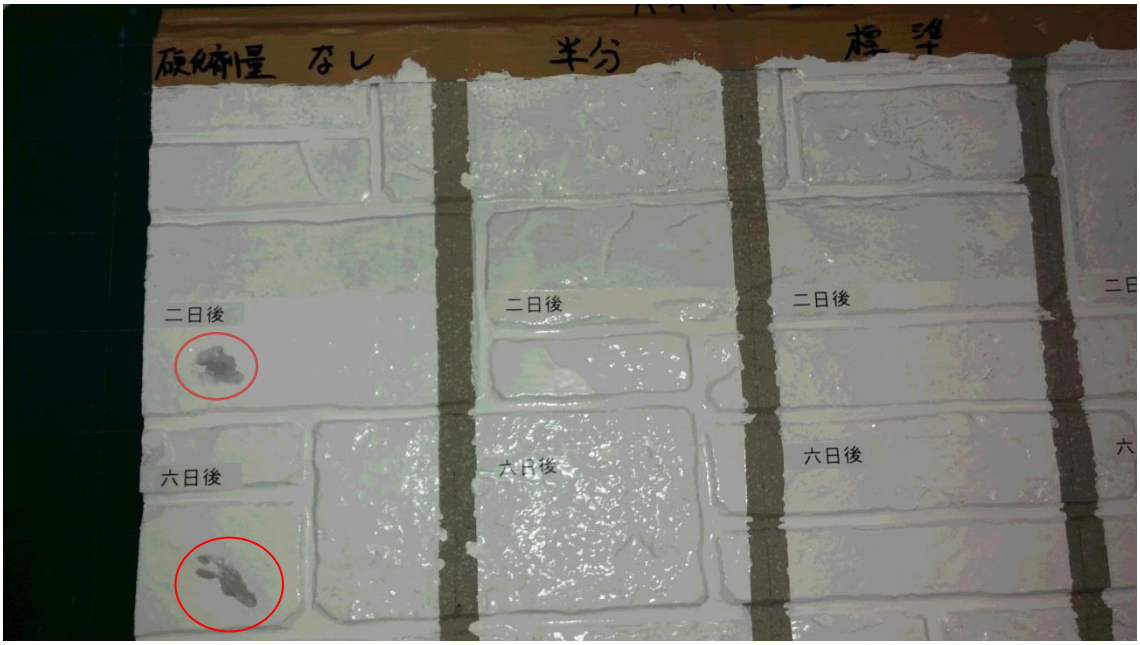




やはり硬化剤の入らない所は２日~６日すぎようが確実に溶解します。
一部硬化剤２倍~３倍の塗装２日後についても表面の溶解が見られました。
その他異常なし！

ロックペイント　ハイパーユメロック





こちらも日本ペイント同様、硬化剤が入らない部分は再溶解しました。
その他の部分に関しては大きな変化は見られませんでした。

まとめ

弱溶剤２液タイプの硬化剤を標準より多く入れた場合乾燥（硬化）が遅くなり２日~４日目位まではタックが残っていると思われます。私的にはタックが消えないと思いましたが６日目頃には、どの塗膜もタックは消えていました。後、硬化剤が少なすぎると健全な塗膜硬度がえられないと思います。
塗料シンナーの再溶解につきましては、硬化剤を入れない塗膜は必ず溶解しその他の塗膜はさほど影響はないと思われます・・・が！！※硬化剤を多く混合した場合のタック（べたつき）がまだ残っている時は再溶解するおそれがあります。
以上、今回の実験を考えますと、硬化剤比率をメーカー仕様通りに混合する事が一番何も影響がなくキレイに施工出来ると思われます。

比率を守りましょう！！
そんな時に必要となるのが計量機です！！
おススメする計量機はこちら

マルテーペイントスケールＳＬシリーズのＳＬ－２０Ｋ！！（２０Ｋまで計量ＯＫです！）

価格の方は各担当まで御連絡下さい。安くしますよ。